

# おかよう

広報誌  
Vol.10



発行元：岡山県児童養護施設等協議会「職員関連事業部会」

## 会長あいさつ



会長：松田 浩一郎

全国に出されていましたが新型コロナウイルス感染予防措置としての緊急事態宣言が全都道府県で次第に解除され小中学校も次第に通常の登校に戻りつつありますが、感染前の状態に戻るにはまだ暫く時間がかかりそうです。政府からは、「新しい生活様式」が公表され、社会生活の上にも学校生活の上にも様々な制限がかかることと存じますが、引き続き施設内感染の予防に取り組んでまいりたいと存じます。

さて、この度岡山県の社会的養育推進計画が策定されました。家庭養育を基本に子どもの意見を聞かれる権利が保証され、その意見が施設に反映され、地域の中で家庭的な生活を送れるよう支援することが求められました。そのために、本体施設の機能強化、関係者の皆様、関係機関との協同を通じまして、地域の養育支援の拠点となるべく機能強化等を目標に10年後を見据えて取り組んで参りたいと存じます。皆さま方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 専門部会 活動報告

### 児童関連事業部会

令和元年度は、中高生交流事業キャンプ・中国地区児童養護施設球技大会・岡山県福祉施設卓球大会・児童交流事業岡山ドーム運動会以上4事業について、部会員で協議し計画実施することができました。交流事業を通して他施設の子もたちや職員との交流を図り、お互いに協力することや助け合うことの大切さを改めて感じることとなりました。

今後も施設間での交流事業が、子どもたちにとってより楽しめる交流、さらに思い出に残るものになるよう部会員みんなで知恵やアイデアを出し合って実施していきたいと思えます。児童交流事業の運営において、ご協力くださいました職員及び関係者の皆様には改めて厚く御礼申し上げます。



### 職員関連事業部会

職員関連事業部会は、職員研修会等の企画・運営や広報誌の作成を担当しています。令和元年度に開催した研修会は、新任職員研修（3回）、成徳学校での宿泊研修、実践発表会です。どの研修でも、講義だけでなくグループディスカッションや調理実習等、職員自身が積極的に参加できる時間を大切にしました。これからも職員がともに学びレベルアップできるような、元気が出て前向きになれるような取り組みを企画したいと思っています。





# 専門部会 活動報告

## 食育部会

元号新たに令和の時代がやってまいりました。

食育部会としても新たな取り組みとして、職員関連部会と連携し、新任職員研修に食育の内容を導入させていただきました。

食事と言っても、ただお腹を満たせば良いわけではありません。子どもたちを健全に育てていくには何が必要なのでしょうか？調理、衛生、栄養…、新任職員と共に当部会員も基本に戻り、改めて考えさせられる研修となりました。

「食」に関する知識は、今後小規模化していく上で、ますます必要となっていくことでしょう。子どもたちにより良い支援ができるよう、職員の疑問解決やスキルの底上げに、食育部会として今後も尽力していきたいと思ひます。



## 心理部会

令和元年度の活動は、社会福祉法人みその児童福祉会主催の心理療法担当職員研修への参加と通常の部会を3回開催しました。

研修では、「生活の中での心理臨床」「支援者の支援」をテーマに心理職の中心的な役割である「対話」について演習を交えながら理解を深めることができました。

今後も事例検討を中心に、心理面接の経過だけでなく生活との関連にも注目し、それぞれの施設のケース会議等で心理職としてのコメントの引き出しを増やせるような機会にしていきたいと思ひます。



## 里親支援専門相談員部会

乳児院、児童養護施設の里親支援専門相談員で構成される部会です。里親支援に関する活動報告や、情報共有を主な目的に年3回の会議を基本としています。令和元年度は初めての取り組みで、施設を会場として里親サロンを2回開催しました。参加者のお話を聴かせてもらう事、里親同士のつながりを深める事が目的ですが、施設のことを知ってもらう機会にもなり、楽しく有意義な時間となりました。今後もあり方を考えながら継続予定です。施設と里親、違いはあっても、子どもたちの幸せの為に、一緒に協力して参りましょう。

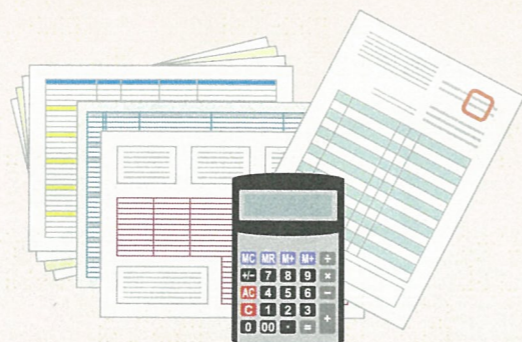


## 制度政策部会

制度政策部会では、昨年度に引き続き岡山県社会的養育推進計画の策定検討会に参画して意見を述べるとともに、計画の素案に対する各施設の意見を調整し、県に提出しました。

また、経営協の一員として、県議会議員や公明党との懇談会の場で「児童養護施設併設型の児童家庭支援センター設置予算の計上」を政策提言するとともに、県議会等に予算陳情を行いました。

このほか、措置費等の改正説明会や天皇陛下奉祝事業に取り組みました。



# 施設紹介

## 岡山市善隣館

館長 岩井 竜一

令和元年10月、第10回目となる善隣館まつりでは、書道パフォーマンスに挑戦しました。音楽に合わせて大きな紙に字を書くのはとても難しく練習も大変でしたが、本番は大成功し、大きな拍手をいただきました。

春休み、楽しみにしていた旅行は残念ながら中止になりましたが、子どもたち発案でグループ対抗料理対決とクイズ大会を行いました。趣向を凝らした料理ができあがり、イントロクイズや職員の子どもの時代の写真を使ったクイズで大盛り上がりした一日でした。



## 岡山聖園子供の家

施設長 則武 直美

岡山市の中心部に位置し、キリスト教的価値観のもと、基本運営方針に「神さまからお預かりした子どもたち一人ひとりを愛し、心を尽くして養育を行う」ことを掲げています。この数年、子どもたちと職員が「ともに」生活を造り上げていくことを改めて意識し、

行事も企画段階から子ども参加・主体で進め、和気あいあい良い雰囲気です。小学生以上は女子だけの施設ですが、よく食べよく遊び、活気と笑い声に溢れています。今年、法人創立100周年を迎えます。



## 新天地育児院

院長 梅里 拓志

いつも皆様のあたたかな応援をありがとうございます。

新天地育児院では、「明るく、元気で、のびのびと！」の気持ちで力あわせて暮らしています。おとなも子どももひとりひとりが、昨日の自分より、今日の自分の成長に挑戦しつつ、楽しい努力を目指してまいります。

日頃のご支援を重ねて御礼申し上げます。皆様の上に、神様の祝福と守りがありますように…。





# 施設紹介



## 南野育成園

園長 三宅 嗣朗

南野育成園で一番大切にしていることは、児童会や職員ミーティングです。また、実習生等にも丁寧に関わってくれている結果、今年度は6人の新人さんが住み込み希望で来てくれました。そして、頑張ってくれている職員の皆さんに応えるために、人事評価

制度を導入し、一人ひとりの頑張りを見える化しました。南野育成園の自慢は職員の皆さんです。皆、明るく笑顔がいっぱいです。職員の皆さんに、心からエールを送ります。



園長 原田 通典

玉島学園は倉敷市に拠点を置く児童養護施設として、地域密着型の施設を目指しております。子どもたちの気持ちに寄り添い、子どもたちが退所しても心のふるさとになれるようにしたいと考えております。また、地域の関係機関とも連携して子育て支援、退所

## 玉島学園

児童のアフターケアにも取り組んでいます。

前身の「岡山県立操南学園」に端を発し、恵聖会初代理事長である「玉島の良寛さま」と呼ばれた河野進の詩集「ぞうきん」に示された思いを忘れずに、玉島学園ブランドを作りあげていきたいと考えております。



## 若松園

施設長 津嶋 悟

若松園は、約60名の子どもたちがそれぞれ独立した6つのホームに分かれて生活しています。本園は小高い丘の上にあります、木々の緑に囲まれた自然豊かな場所にあります。

地域には3つのホームを持ち、出来る限り家庭に近い環境で生活しています。子どもたちが朝「行ってきます！」と出かける時に見送ること、そして帰って来た時に「おかえり！」と温かく迎えることを大切に、子どもたちにとって「安心できる場」そして「ふるさと」となる施設づくりを目指しています。

そのような中で特に力を入れているのが、32名の職員が自分の特技や趣味を子どもたちに還元し、共に取り組む姿勢です。実際に、バレーボールやうらじゃ、剣道・卓球・手芸・料理など、様々なことに取り組んでいます。子どもたちが自信を持って何事にも取り組んでくれるよう、今後とも一丸となって支援していきたいと思ひます。



施設長 小出 叡

## みのり園

みのり園は岡山県中央部の標高330mの澄んだ空気・太陽の輝き・緑豊かな吉備高原台地にあります。

この恵まれた自然環境のもと、地域小規模ケア2戸（男子・女子）、グループホーム（女子）、男子は本園で生活しています。職員は子どもたちとお互いの人権を尊重し、家族に代わる温かい関係性を構築できるように努めています。健やかに育つ子どもたちを支えるみのり園でありたいと日々、頑張っています。



## 天心寮

施設長 山本 兼士

天心寮は、岡山市から北へ20kmの赤磐市にあり、田や山に囲まれた自然豊かな田園地帯が広がっています。大舎制の元、約30人の児童が生活しており、職員は大舎の長所・短所を認識し、施設全体の調和を図り、児童一人一人の育ちに真剣に向き合っています。小学校中学校も近い距離にあり、月に一回の連絡会・学習・生活面支援での連携等、互いの立場を理解した上での協力関係を築いています。



## 悲眼院

院長 高橋 昌文

当院は大正3年、仏教の教えのもと、誰もが無料で医療を受けられる救療事業所として開設されました。昭和25年に児童福祉法に基く虚弱児施設に認可され、平成10年に法の改正により児童養護施設となって現在に至るまで、多くの子どもたちとともにその歴史を刻んで参りました。

笠岡市北部の自然豊かな環境の中、子どもたちはのびのびと生活しています。毎年恒例の運動会や交流会等を通じて、地域の方々にも温かく見守って頂いており、長い歴史が築いた地域社会の中の大家族のような存在として、今日も子どもたちの声が響いています。





# 施設紹介



## 津山二葉園

園長 吉村 惣子

本園は津山警察署近くの小高い丘にあり、辺りは静かでもた多くの自然に囲まれた中で子どもたちは生活をしています。お年寄りから学童の子どもさんと一緒に過ごす夏祭りやクリスマス会を子どもたちは楽しみにしています。毎日の食事では、旬の食材を使用し

調理を行っています。近年は、英語学習に力を入れており、フィールドトリップや個別の英語レッスンに取り組んでいます。その中で、パソコンを使った学習にも取り組んでいます。



## 立正青葉学園

園長 岸本 延子

宗教法人 妙勝寺を母体としている立正青葉学園は、津山市の西寺町にあります。援助目標として「かぎりないやさしさをもとめて～美しい心で良く学びよく行動し丈夫な体にな」を掲げ、支援を行っています。児童定員30名で現在26名の児童が生活しています。

平成27年度より、4ヶ所ある全てのユニットを小規模グループケアとし、今年度より、本園2ユニット（小規模グループケア事業）、分園2ホーム（分園型小規模グループケア事業）を開始しました。令和7年までに3ホーム2ユニットを目指し、ハード面、ソフト面共に強化を図っている所です。今年度より、学園では子ども達の声を聴く体制の整備を始めました。まずは児童自治会（どんぐり会）のあり方を担当職員中心に検討し、会の充実を図っている所です。



分園「トミイの家」

## わかば園

園長 松田 浩一郎

本園は施設の老朽化に伴い、昨年4月から全面建て替え工事を始め、12月12日に新園舎が落成しました。2～3人の共同部屋から全員が個室になり、今まで入浴と食事の時は園舎から出て別棟に行く必要がありましたが、新園舎ではユニット内で全ての生活が送れるようになりました。今はどのユニットも真っ白な状態ですが、これから児童と職員で特色という色を塗っていき、色とりどりの魅力あるユニットを作っていければと思います。



# 施設紹介



## 旭川乳児院

院長 堀野 宏樹

乳児院は児童福祉法第37条に定められている児童福祉施設です。保育士、看護師、栄養士、心理職、家庭や里親を支援するソーシャルワーカー、医師など専門的な知識をもったスタッフが乳児だけでなく幼児やそのご家族、地域に至るまでまるごとサポートできること。それがわたしたち乳児院の強みです。

何らかの理由でご家族が赤ちゃんを育てられなくなった時に、児童相談所を通じて一時的または中・長期的にお預かりし、24時間365日体制で養育する“もうひとつのあったかいうち”。それが乳児院です。



## 津島児童学院

学院長 濱口 喜直

津島児童学院は昭和37年に全国で初めての情緒障害児短期治療施設として岡山県により開設され、指定管理等を経て平成23年に旭川荘に移譲となりました。津島児童学院には理由はあるものの家族から不適切な養育を受け発達に特異性のある児童が多く利用し

ています。総合環境療法による治療・教育的な関りを児童精神科医、心理士、生活支援員、保育士、学校教員等と連携し子どもらしさを取り戻すべく家族を巻き込み奮闘しています。



## 岡山県立成徳学校

校長 池田 俊英

成徳学校は、児童福祉法第44条に記される児童自立支援施設です。小舎夫婦制を特徴とした寮運営を行っており、児童指導に直接関わる全ての職員とその家族が寮に住み込み、24時間、児童と寝食を共にしております。また、平成21年には岡山市立緑ヶ丘中学校が本校として施設内に併設されました。

成徳学校の自慢は、「自由」であることです。行事である校外指導をはじめ、休日には寮毎に校外に遊びに行くこともあります。夜は夜で楽しいので、みなさん、ぜひ遊びにきてください。





# 投稿コーナー

「ホームの担当職員が嫁に行き遅れる」と言い、子どもたちがひな人形を急いで片付けてくれるのは良いが.....3月3日の夕方にはもうしまわれてしまっていた.....  
 「うちこないだ、びっくりして顔が点になったんよ〜」と言って、周囲のみんなの目が点になったあの日の時..... 「うち替えになったあのおまつに排便。「うんちのおまつ〜」職員がおまつを脱がし、替えのおまつを取りに行こうとすると、4歳の只くんが「先生見とってあげるな。」と気を利かして言ってくれたのでお願いし、こっきりAくんがおまつを触らないように見張ってくれるものだと思いきや、なんとおまつ内の便をじ〜っと見張ってくれました!!



乳児院から施設で生活してきた小らのK君。ここに行くにも忘れ物がいつからか水筒に茶たいお茶を欠かしません。外出時「そろそろ寒いのに茶たいお茶がいるの?」と尋ねると、「お母さんは喉が渇くんよ」と言って笑いました。母にその話をあのだとか。

旭川乳児院では昨年度、新たにウッドデッキの設置と軒の延長工事を行いました。真夏の暑い日差しや直射日光を避けた屋外保育空間の提供のためです。完成したウッドデッキの手すりフェンス部分に、「抱っこボランティア」でお馴染みの「ぐるーん」のみなさんで楽しい絵画制作をしていただきました。院庭で遊ぶ子どもたちをメルヘンの国に連れて行ってくれるような四季をモチーフにした絵で、戸外遊びにも夢が広がっています。



新園舎にない、横並びの食事スタイルから全員が顔を合わせて食事が摂れるよう円状の食事スタイルに変重しました。当初は喋り過ぎや中高生から小学生への悪影響など、メリットよりデメリットはかい考えていましたが、実際はとても良い雰囲気です。食事が摂れ、まさに困らぬという感じになりました。子どもたちの話を聞きたい、笑顔を見て食べる食事は2倍美味しいです。

早朝の新豊配達のアリバイトをしている男子高校生がいます。朝から新豊を配り、野球部員としても頑張っています。いつものように新豊を配りに行くと「毎日、よく頑張っているな」と近所の方が缶コーヒーを彼に下さいました。地域の方も子どもたちの頑張りを見て下さっていることが嬉しいです。



## 編集後記

今号は、第10号を記念して、岡養協の全15施設を写真入りで紹介しました。各施設の取り組みや、子どもたち・職員の皆さんの生き生きとした姿から元気をもらうことができました。お忙しい中、広報誌作成にご協力してくださった皆様、ありがとうございました。